



下諏訪町

『水循環・資源循環のみち2015』

平成27年度策定

下諏訪町は、諏訪湖に面し、扇状地に発達した町で諏訪湖に流れ下る川を中心とした自然環境豊かな温泉宿場町として発展してきました。

この自然環境や水環境を後生に残すため、昭和48年から「よみがえれ諏訪湖・泳げる諏訪湖」を取り戻そうと生活排水対策事業（公共下水道）を進めて、ほぼ全域に下水道を普及してきましたが、現在では人口減少や高齢化の進展など社会情勢の変化への対応が求められています。

また、生活排水施設は、機能の維持や利用者である住民の皆様の利便性や快適性を持続していくため、今後とも適切な維持管理のもと運営を行っていく必要があります。

このため、維持管理の効率化等を検討し、生活排水施設の持続的な運営と良好な水と資源の循環を目指すため、20年後までの生活排水対策の構想である「下諏訪町 水循環・資源循環のみち2010」を策定し、平成27年度に見直しを行いました。

下諏訪町型マンホール鉄蓋



下諏訪町の指標と目標

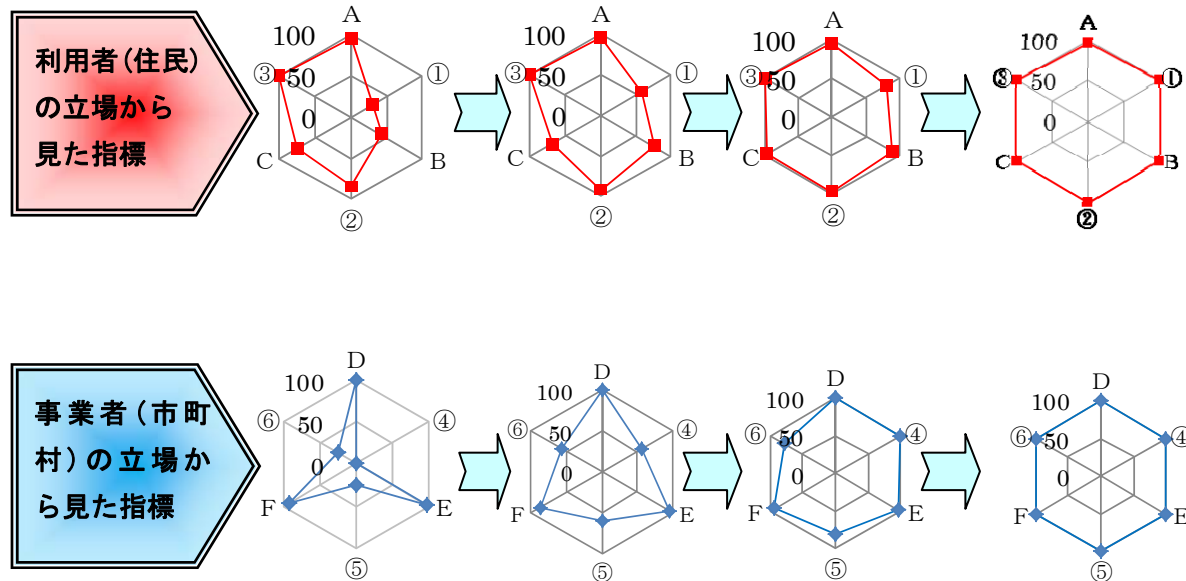
下諏訪町では、構想の目標年度である2030年までに向けて、利用者（住民）の立場から見た指標と事業者から見た指標として、県下の統一指標の他、当町の現状を把握した上で、オリジナル指標を設定し、短期、中期、長期の目標を以下のとおり設定します。

現状 (H25)
(2013)

短期目標 (H32)
(2020年) 目標

中期目標 (H37)
(2025年) 目標

長期目標 (H42)
(2030年) 目標



1. 利用者（住民）の立場から見た指標

(1) 暮らしの快適さを表す評価項目

A：快適生活率(%)：96.7→96.7→96.7→96.8 【県下統一指標】

①：し尿及び浄化槽の転換率(%)：31.0→58.3→80.7→100.0【町独自指標】
(下水道への接続を推進することにより快適な暮らしを目指します。)

(2) 環境への配慮を表す評価項目

B：環境改善指数：54.0→79.0→90.0→100.0 【県下統一指標】

②：生ごみリサイクル活用率(%)：84.4→91.3→95.8→100.0【町独自指標】
(地球温暖化対策に伴う低炭素化を目指します。(肥料化))

(3) 住民参画への取組を表す評価項目

C：情報公開実施指数：75.0→68.8→95.8→100.0 【県下統一指標】

③：不便解消率(%)：100.0→100.0→100.0→100.0【町独自指標】
(下水道を安心して使用できることを目指します。)

2. 事業者（下諏訪町）の立場から見た指標

(1) 整備事業の達成度を表す評価項目

D：汚水処理人口普及率(%)：99.9→99.9→100.0→100.0 【県下統一指標】

④：長寿命化対策率(%)：0.0→56.0→100.0→100.0【町独自指標】

(長寿命化計画が策定され、鉄蓋の交換を計画的に実施していきます。)

(2) 資源循環への貢献を表す評価項目

E：バ 付双利活用率(%)：97.4→97.3→97.3→100.0【県下統一指標】

⑤：水質保全貢献度(点)：25→60→80→100【町独自指標】

(現状の水質を保全維持するため環境への貢献度(5点/年)を重ねることを目指します。)

(3) 経営の長期的な状況を表す評価項目

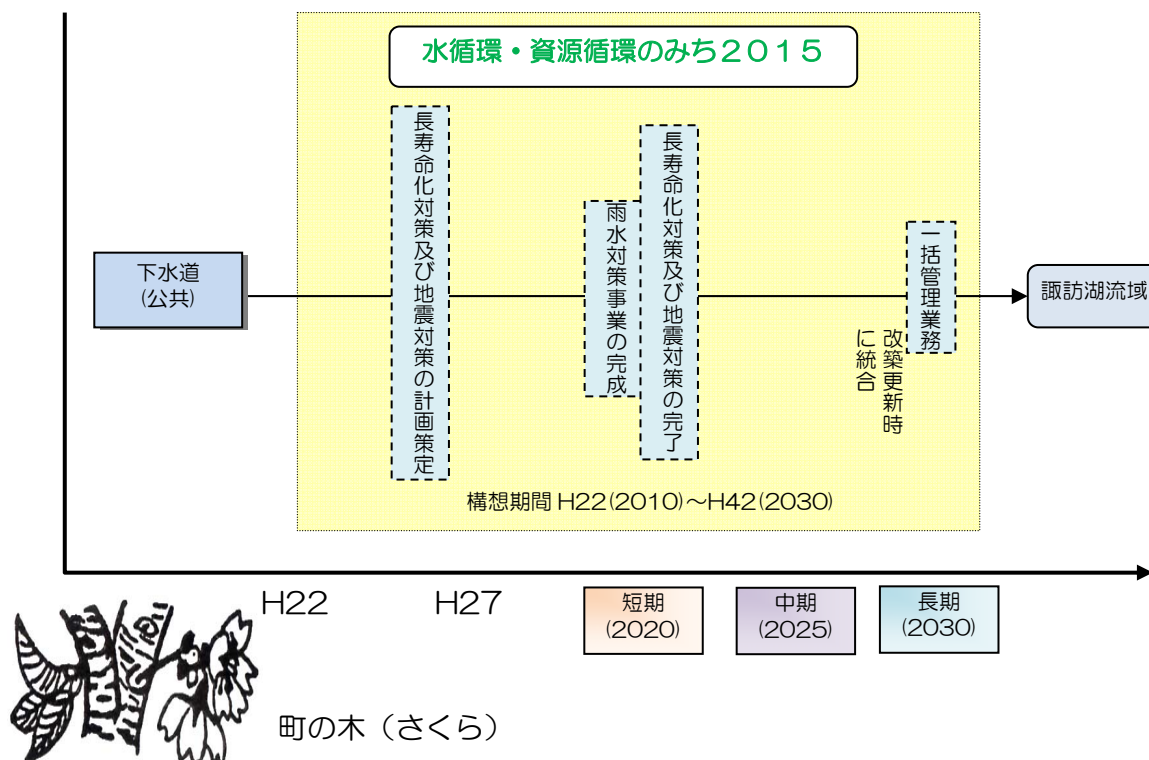
F：経営健全指数：→93.0→87.0→94.0→100.0 【県下統一指標】

⑥：生活排水状況把握率(%)：25.8→56.3→78.1→100.0【町独自指標】

(生活排水(公共下水道接続+合併浄化槽設置)が100%になるように目指します。)

施設計画のタイムスケジュール

下諏訪町では、経営計画に基づき構想の具現化及び目標達成のため、安全安心のまちづくりのため、雨水対策事業の完成と長寿命化対策及び地震対策の完了を短期目標としています。長期及び超長期にわたって一括管理業務計画等のタイムスケジュールを以下のとおりとしています。



住民参画への取組

普及率100%であります。将来の改築更新を見据えた計画が必要とされるため、経営の健全化を踏まえ長寿命化対策及び地震対策の実施と公共下水道への接続を推進し、下水道への関心を持っていただくよう啓発活動を検討していきます。

- ・年一度、下水道関係の情報を提供していきます。
- ・下水道を知っていただくためのイベントを流域と協賛して行っていきます。

その他

効率的な維持管理を行うため、民間の創意工夫を活用した包括的な民間委託を検討します。



万治の石仏

*****問い合わせ先*****
* 下諏訪町 建設水道課 下水道温泉管理係 *
* TEL 0266-27-1111 内線 221 *
* メール ongesui@town.shimosuwa.lg.jp *



下諏訪町『生活排水エリアマップ2015』

平成27年度策定

下諏訪町の生活排水施設整備は、1974(昭和49)年の公共下水道事業から始まり、平成3年のエリアマップを基本とし、適宜状況の変化に対応した見直しを行った結果、ほぼ全域に下水道が普及し、施設整備は概成しました。

生活排水エリアマップ2015では、持続可能な生活排水施設の観点から経営計画を長期にわたって検討した上で、下水道への接続の推進、下水道施設の長寿命化及び維持管理などを含め将来のマップを作成しました。

生活排水エリアマップ2015 (概要図)



アクションプランへの取組

- (1) 未接続家屋への取組
 - ・整備区域内における未接続家屋に対し普及啓発を行い、未接続件数を減らす取組を行います。
- (2) 浄化槽整備に関する取組
 - ・認可区域外の地域においては、浄化槽への理解を深めていただき、設置を促進していきます。

地震対策への取組

- (1) 地震被害想定への取組
 - ① 重要な幹線・緊急輸送路及びJR軌道下の把握

処理区名	幹線名	管路延長、口径、管種、中継ポンプの有無及び規模等
第1処理区	砥川西第一・二幹線	L=3,160m、φ0.8~0.3m、中継P無
第2処理区	中央第一・二・三幹線	L=6,740m、φ1.0~0.3m、中継P有 吐出量 1.8・/min/台
第3処理区	湖浜第一・二・三幹線	L=1,320m、φ0.8~0.4m、中継P無
第5処理区	高木幹線	L=150m、φ0.8~0.4m、中継P無

- ② 緊急輸送路（管路延長 約10km）
 - 国道20号 L=約3km、国道142号 L=約3km、県道 L=約2km、町道 L=約2km
- ③ JR軌道下（L=約0.2km、7箇所）

- (2) 地震対策の取組
 - ・平成26年3月に緊急輸送路及び防災拠点施設を対象に下水道施設総合地震計画を策定し、平成26年から平成30年の5力年で地震対策工事を実施します。
 - ・下水道BCPを平成27年3月に策定しました。
 - ・下諏訪町地域防災計画に基づき地震対策について防災担当と協議して推進します。



下諏訪町『バイオマス利活用プラン2015』

平成27年度策定

下諏訪町の生活排水施設系から発生する汚泥（バイオマス）は、クリーンレイク諏訪（豊田終末処理場）と湖北衛生センターの処理となっており、その処理処分は主にコンポスト化、建設資材として再利用を図ってきました。また、汚泥の消化・焼却の過程で得られる消化ガスは燃料として利用されています。

このため、「バイオマス利活用プラン2015」では、バイオマスを集約化し、経費節減を図っていくとともに、周辺市町村と共同しバイオマスの利活用、地域で発生する未活用バイオマスの一層の効率的な利活用、地産地消を目指します。

下諏訪町におけるバイオマス利活用プラン

汚泥処理については、諏訪湖流域下水道と協働して計画の推進を図ります。

浄化槽汚泥・し尿は、湖北衛生センターで処理後、平成24年より民間委託処理（コンポスト等）しています。



町の花（つつじ）

バイオマスプラン

（1）し尿・浄化槽の公共下水道への接続に関する取組

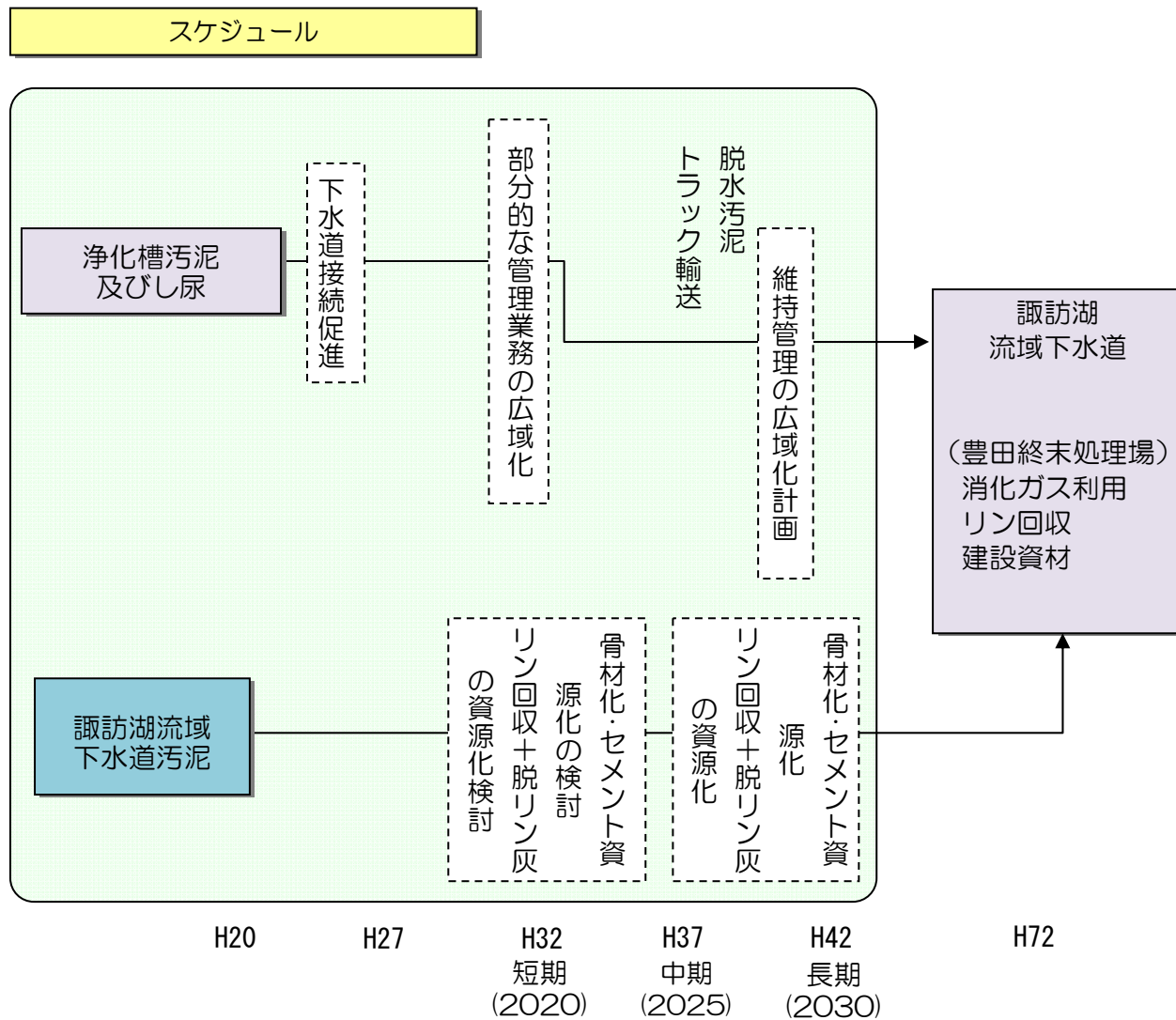
- ・公共下水道への接続協力
- ・普及促進のためのアンケートの取組
- ・水洗便所等改造資金融資あっせん制度の継続
- ・補助制度の検討

（2）下水道汚泥の有効活用方法の検討

現在、クリーンレイク諏訪において、下水道汚泥の全量処理を行っていますが、短期～中期的には産業廃棄物の処分先確保が困難になるリスクの回避の観点から他の有効利用を検討する必要があります。そのためセメント資源化について検討を行うほか、下水道汚泥に含まれるリン回収技術も確立してきたことから今後、その動向についても注視していきます。

(3) し尿・浄化槽汚泥について

人口減少等を踏まえ、湖北衛生センターの施設運営等について中期～長期の間に関係市町（岡谷市、下諏訪町、辰野町）で協議を行います。





下諏訪町『経営プラン2015』

平成27年度策定

下諏訪町では、1979（昭和54）年に公共下水道が供用開始して以来、下水道普及率100%となっています。その経営状況は、使用料収入の他、一般会計からの繰入れにより賄われています。

このため、将来にわたって持続可能な経営を検討していく必要があり、構想の策定目標年度の15年後までにできる改善計画を検討した上で、経営計画を策定し「経営プラン2015」を策定しました。

下諏訪町における生活排水の経営計画

■経営計画の内容について

- 現状のままの状況であれば平成33年頃から使用料収入で賄えますが人口自然減に伴い収入が減る中で、管路施設の維持管理・整備などが増額となり、財源不足で事業できないことが今後予想されます。また、平成35年に耐用年数（50年）になり改築更新への時代を迎えます。現状では、昭和49年に事業開始であるため30年以上経過しており事業を繰り上げて施行しないとリスクが大きくなってきています。

厳しい財政状況の下に今後、長寿命化及び地震対策などの改築更新が求められている情勢を見据えて改築計画と維持管理計画を一体化し、中長期的な投資判断に基づく施設機能の更新を実現します。

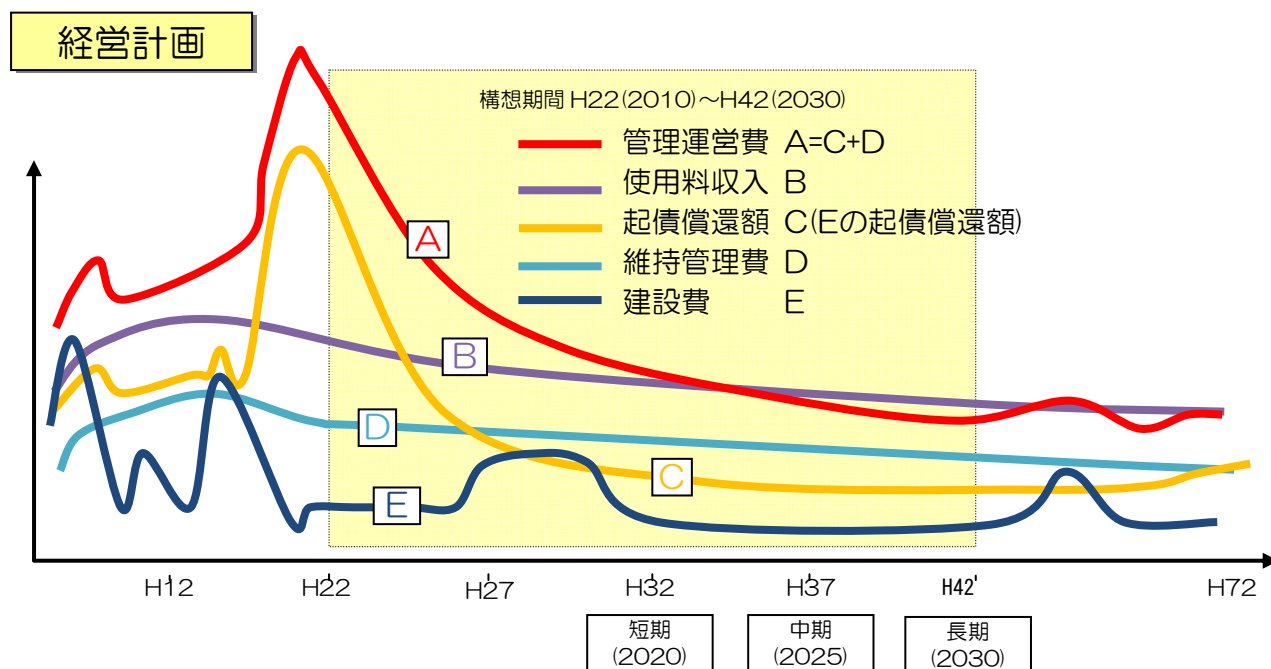
- 浄化槽及びし尿などの経営計画は、関連する自治体と協議検討し、今後、業務の効率化を目指します。

■管理経営の方法について

- 機能維持の効率化を目指し、既存の管を長寿命化等に対応して将来の維持費を軽減させて経営の健全化を図ります。
- 将来的には広域化で維持管理することが業務の効率化になります。
- 包括的民営民間委託を見据えた対応が求められます。

■浄化槽管理の方法について

- 諏訪浄化槽衛生管理組合において、適正な管理を行います。



管理経営

- 諏訪湖周辺地区による一部業務の効率化（技術者不足の解消）
- 浄化槽・し尿処理組合の一部業務の効率化を図ります。
- 包括的民間委託を検討します。

経営基盤の向上対策

- ① 現状の把握（基準年度：平成25年度）
 - 一人当たりの運営費 24.4千円/人・年（維持管理8千円/人・年、資本費16.4千円/人・年）
 - 一人当たりの負担額使用料 24.4千円/人・年（使用料22.5千円/人・年、繰入金1.9千円/人・年）
- ② 使用料の適正化への取組
 - 長寿命化により施設維持管理費を抑え、審議会により適正な使用料を検討します。
- ③ 処理区域での接続促進への取組
 - アンケート調査等により現状を把握し、個別訪問して理解と協力をお願いします。
- ④ 経営の明確化への取組
 - 人口減少等により下水道施設整備の改築更新は、使用料で賄えない状況であるため機能維持の効率化を目指し、既存の管を長寿命化等に対応して経営の健全化に努めます。

現状把握と検証

下諏訪町「水循環・資源循環のみち2010」構想の見直しに当たり、事業者（町）が構想における現状把握と検証を行いました。その結果は次のとおりです。
また、その結果を基に今回見直しを行いました。

指標	現状把握 (平成25年度末現在)		検証結果	見直し方針
	計画	実績		
A:快適生活率 (%)	98.4	96.7	A指標は、目標を達成することができませんでした。	A指標は、目標達成できるように接続促進に力を入れていきます。
①し尿及び浄化槽の転換率 (%)	31.2	31.0	①指標は、率は上がっていますが、目標を達成することができませんでした。	①指標は、目標達成できるように接続促進に力を入れていきます。
B:環境改善指数	54.0	54.0	B指標は、目標どおり進んでいます。	B指標は、当初目標どおりに進めます。
②生ごみリサイクル活用率 (%)	68.0	84.4	②指標は、目標どおり進んでいます。	②指標は、当初目標どおりに進めます。
C:情報公開実施指数	81.8	70.9	C指標は、率は上がっていますが、目標を達成することができませんでした。	C指標は、目標達成するように、情報公開方法を見直します。
③料金滞納改善率 (%)	28.0	35.0	③指標は、目標どおり進みました。	③指標は、複雑で分かりにくい ため、指標の見直しを行う。
D:汚水処理人口普及率 (%)	99.9	99.9	D指標は、行政人口、接続人口ともに減少していますが、普及率は現状を維持しています。	D指標は、当初目標どおりに進めます。
④長寿命化対策率 (%)	2.1	2.2	④指標は、目標どおり進んでいます。	④指標は、複雑で分かりにくい ため、指標の見直しを行います。
E:バイオマス利活用指数	94.0	97.0	E指標は、目標どおり進みました。	E指標は、当初目標どおりに進めます。
⑤水質保全貢献度	25.0	25.0	⑤指標は、目標どおり進んでいます。	⑤指標は、当初目標どおりに進めます。
F:経営健全度	12.0	13.0	F指標は、目標どおり進んでいます。	F指標は、当初目標どおりに進めます。
⑥生活排水状況把握率 (%)	26.0	26.0	⑥指標は、目標どおり進んでいます。	⑥指標は、当初目標どおりに進めます。